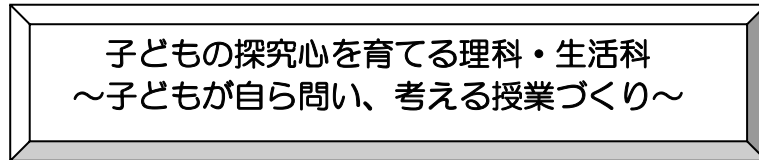


# 平成26年度の研究について

## 1、研究主題



## 2、主題設定の理由

### (1) 学校教育目標から

<b>学校教育目標</b> 心豊かで かしこく たくましく ○確かな学力 ○豊かな心 ○健やかな体	<b>めざす児童像</b> なかよくできる子 からだをきたえる子 やさしくできる子 まなびつづける子
---	--

本校では、上記の学校教育目標のもと、日々の教育活動が行われている。「確かな学力」とは、知識を丸暗記する学力ではなく、自ら関わり、実感を伴った理解をする学力のことある。子どもが、「確かな学力」を身につけていく過程とは、生活科では、自分の思いや願いを持って対象物にかかわる中で、気づき（思考の深まり）、気づきをもとに次の目的に向かって活動し、気づきの質を高めていく（探究心の高まり）ことだと考える。理科では、事象を追究していきたいという意欲から、体験的な活動を通して考えを深め（思考の深まり）、そこから新たな疑問が生まれていく（探究心の高まり）ことだと考える。そして、そのような「確かな学力」を身につけた子が「まなびつづける子」の姿である。このような「まなびつづける子」を育てたいと願い、研究に取り組んでいる。

### (2) 昨年度の研究から

昨年度の研究から、導入で大切にしたいことが見えてきた。

子ども	教師の手立て						
新しい発見をする	①新しい視点を与えて事象に出会わせる。 …見慣れたものも新しい視点で見ることで発見がある。						
	②適切な場と時間を確保する。 …敢えて一度しか見せないことも手立て、一番効果的な場と時間を与える。						
気づき(発見)を共有する	③気づきを認める。 …新しい発見にかかわる細かな観察による気づきは大いに認める。						
	④気づきを整理して板書する。 …グループを作ることで条件などを見つけやすくする。						
目的を見出す	⑤子ども達が考えられる矛盾と出会わせる。 …矛盾が <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 5px;">素朴概念とのつながりがあるもの</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 5px;">既習内容とのつながりがあるもの</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 5px;">体験により実感したことがあるもの</td> </tr> </table> であると子どもは考えられる。 考えと条件を結び付けることで追究の仕方が考えられるようになり、見通しを持つことができる。	}	素朴概念とのつながりがあるもの	}	既習内容とのつながりがあるもの	}	体験により実感したことがあるもの
	}	素朴概念とのつながりがあるもの					
}	既習内容とのつながりがあるもの						
}	体験により実感したことがあるもの						
	⑥子どもが考えるような発問をする。 …子どもの実態に応じて、頑張れば乗り越えられる丁度良い高さの壁となるような発問をすることで、子どもは自分の力で考え説明しようとする。						

これらの中でも、特に「⑤子ども達が考えられる矛盾と出会わせる。」ことが子どもの思考の流れに沿った授業を作る上で重要だと考えた。そこで、今年度は研究副主題を「子どもが自ら問い、考える授業づくり」として研究を深めていきたい。

### 3、研究の内容

#### (1) 学びのスパイラル

本校の研究では、理科における「探究心の高まり」と「思考の深まり」を以下のように考えている。生活科では「探究心の高まり」を「気付きの発展」、「思考の深まり」を「気付き」としている。

## 「探究心の高まり」

事象に関心を持ち、友だちと意見を交換する中で自分の考えを持ち、さらに追究しようとする。こと。(理科)

### 気付きの発展 (生活科)

次の活動につながっていく考えや思い。

## 「思考の深まり」

事象に気付き、疑問を持ち、体験的な活動や友だちとの話し合いを通して自分の考えを見つめ直し、自分の見方、考え方を持つこと。(理科)

### 気付き (生活科)

活動や体験からの気付き。

話し合いの場面も観察・実験の場面も、ともに「探究心の高まり」と「思考の深まり」が見られる場面であり、子どもたちの中で同時に起こっていると考えられる。そこで本校では、探究心の高まりと思考の深まりを交わせながら学習を進め、単元における目指す児童像に向かって、スパイラル型の展開を意識して授業を行っている。その様子を表した「学びのスパイラル」(下図)を作成し、その単元において子ども達の探究心がどう高まっていくか、思考がどう深まっていくかを表すことにしている。

<学びのスパイラル>

## 目指す子ども像

### 生活科

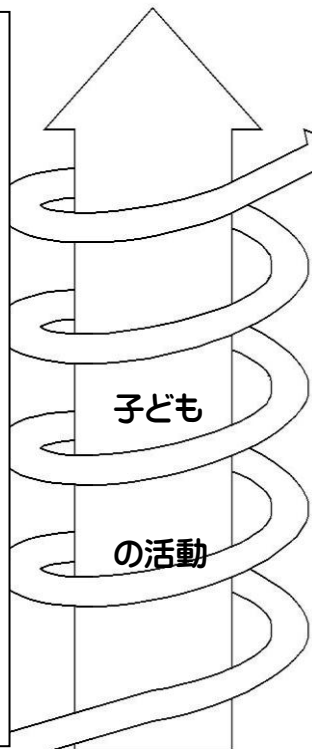
- ・自然・社会・人に興味関心を持ち、自分がやってみたくてという気持ちを高めながら、さらに思いや願いを持って活動に取り組む。
- ・自分の活動を振り返り、次の活動の目当てを見つけようとする。

の気  
発  
展  
き

### 理科

- ・事象に関心を持ち、取り組もうとする。
- ・自分の考えを伝えたい、という思いをもとに、実験・観察を通して考えをまとめようとする。
- ・自分が持った考え方を活かし、さらに追究しようとする。

探  
究  
心  
の  
高  
まり



児童の実態(前提)

### 理科

- ・事象に気付き、疑問を持つ。取り組み方を考える。
- ・体験的な活動から自分の考えを持つ。友達との話し合いで事象についての自分の考えを見つめ直す。
- ・自分の見方、考え方を持ち、それを活かす方法や活かせる場面を考えられる。

思  
考  
の  
深  
まり

児童が矛盾を感じている姿に下線を引く。

### 生活科

- ・自分や友達の良さに気付く。
- ・自然・社会・人と自分との関わりに気付く。
- ・友達と関わりあう中で、気付きを伝え合う。
- ・教師が場面に応じた支援をすることで、気付きの質が高まる。

気  
づ  
き

## (2) 前提と矛盾

子どもが自ら問いを持ち、考え始めるためには、考える糸口を見出せる矛盾に出会う必要がある。そのような矛盾を演出するために大切なことは、以下の2つである。

### ①前提（子どもの持つ知識や思考の流れを把握すること）

子どもが持つ前提とは、これまでに学習した既習事項から得た知識や、生活する中で獲得してきた知識、およびこれらの知識を使って考える思考の流れのことである。前提を把握するには、子どもがこれまでに学習した内容を振り返ることや、日常の会話、授業中の発言などの中から見つけ出すことが必要となってくる。

### ②矛盾（その前提をひっくり返すこと）

子どもが持つ前提を、目の前にある事象や、目の前で起こる現象によってひっくり返すことが矛盾である。子どもが自分の理論で考えていることと違う事象と出会ったときに、「あれ？」「おかしいな？」「不思議だ」と感じる。このように子どもが感じ、考える糸口が見つかり、「こうだからかな」「こうしたらこうなるかな」と考え始める。この、自ら問いを持ち、考え始める授業を作っていくことが探究心を育てる理科・生活科につながっていくと考えた。

## 4、目指す児童像

学びつづける子を育てるために、「学びのスパイラル」、「子どもが自ら問いを持ち、考え始める矛盾との出会い」に重点を置き、日々の授業を行っている。学びつづける子の具体的な姿を、本校では、発達段階に応じて以下の目指す児童像としてとらえている。

目指す児童像	探究心が高まっている姿	思考が深まっている姿
低学年 チャレンジしながら 学び合う子	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然・社会・人に興味関心を持ち、自分がやってみたいという気持ちを高めながらさらに思いや、願いを持って活動に取り組む。</li> <li>自分の活動を振り返り、次の活動のめあてを見つけようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友だちの良さに気付く。</li> <li>自然・社会・人と自分との関わりに気付く。</li> <li>友だちと関わり合う中で、気付きを伝え合う。</li> <li>教師が場面に応じた支援をすることで、気付きの質が高まる。</li> </ul>
中学年 気づき、試し、考えを 伝え合う子	<ul style="list-style-type: none"> <li>こだわりを持って自然の事物・現象に自ら働きかけ事実を集める。</li> <li>変化の原因に関心を持ち、疑問を解決するための実験方法を考える。</li> <li>自力解決する面白さを感じながら学習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象を比較して違いや共通点に気付く。</li> <li>自然の事物・現象の変化とその要因を関係づける。</li> <li>事実をもとにそれぞれが考えた変化とその要因の関係づけを話し合う。</li> <li>自然の事物・現象と変化の要因を関係づけた見方を持ち、事実を見直す。</li> </ul>
高学年 認め合い、見つめ直し、考えを深める子	<ul style="list-style-type: none"> <li>矛盾を感じたものに対して自分なりの見方・考え方を持ち、必要な実験・観察などの追究する方法を考えようとする。</li> <li>自分の考えが少しずつ深まっていくことの楽しさを感じる。</li> <li>事物・現象を何度も見つめ直し、考えを深めようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの中で複数の考えの可能性に気付く。</li> <li>事物・現象に関する事実を結び付けて考える。</li> <li>話し合いで伝え合った友達の意見から考える。</li> <li>実験・観察や話し合いから事物・現象を見つめ直すことで、考えが深まっている。</li> </ul>